

地域住民に認知される国有林を目指して

～ビジタースポット及びデジタル森林浴を活用した国有林PR～

北海道森林管理局 上川北部森林管理署 森林整備官 ○岡村 澄香
北海道森林管理局 網走西部森林管理署 森林官 小林 昌志
(元 上川北部森林管理署)

1 背景

上川北部森林管理署では令和3年に「国有林ビジタースポット」という独自の情報発信の場を設置しました(写真1)。本取組のねらいは、地域住民に対する国有林並びに森林管理署の認知度の向上です。地域の子供から大人までわかりやすく国有林や森林管理署をPRするため、「ポップでキャッチー」及び「地域と連携」の2つをテーマに取り組んでいます。



(写真1: 署入口のビジタースポット)

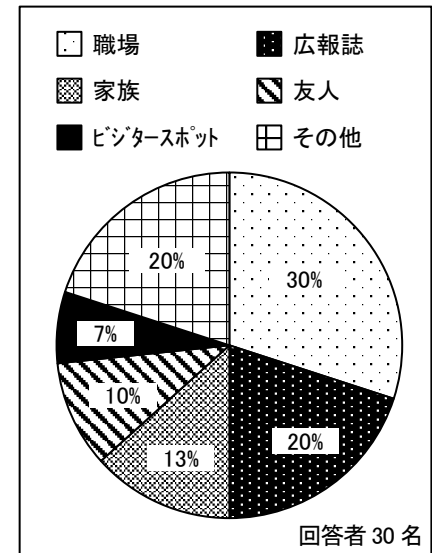
2 取組の3本柱

取組の柱は【ビジタースポット】【デジタル森林浴】【出張ビジタースポット】の3本です。【ビジタースポット】については、「イメージキャラクター」「広報誌」「モニター展示」「パネル展示」「木材製品展示」に取り組んでいます。【デジタル森林浴】については、映像や音響等により室内で自然環境を疑似体験できるテクノロジーであり、地域住民に国有林を身近に感じてほしい等のねらいのもと、令和3年12月に庁舎の会議室にて開催しました。【出張ビジタースポット】については、下川町のイベント「森ジャム」へ出展し、森林や木材を肌で体感してほしいというねらいのもと、常設展示の内容に加え体験コーナーを設置し、令和5年度は181名の参加がありました。

3 取組の成果

これらの取組を経て、「森林管理署」の認知度について令和5年度の出張ビジタースポットのアンケートにて調査をしました。その結果、「森林管理署」について約6割の人が「知らない」と回答し、さらなるPRの必要性が見られるとともに、それらの人にも出張展示によって知ってもらうことができました。一方、どこで「森林管理署」を知ったかを調査したところ、2番目に広報誌の効果が大きく、ビジタースポットに足を運んで知ったという回答も見られました。以上のように、これまでの取組によって、今まで森林管理署を認知していなかった人たちにも国有林をPRすることができました(表1)。

(表1: どこで「森林管理署」を知ったか)



4 課題・提案

課題としては、アンケートで約6割の人が知らないと回答する等、地域にまだPRが行き渡っていないのが現状です。そのため、人が集まる場所へ出張展示を行い、効率的に認知度を増やすことで、常設展示にも足を運んでもらうことができると考えます。また、常設展示は情報発信がメインとなることから、満足度の高かった森林や木と触れあえる体験コーナーを出張展示で行うことで、より効果的にPRができると考えます。

以上のことを踏まえ、他署で国有林PRをする上で、なるべく低予算で取り組むよう工夫をしてビジタースポットを開設することを想定すると、主な常設展示は全体で13万円から18万円程度で行うことができますので各署で検討してほしいと思います。